

令和 4 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 1 2 7 ） 学校名 豊田市立藤岡南中学校

1 テーマ

まわりの人とともに未来を生きる力の育成

2 ねらい

目指す生徒像である「広い視野をもち、よき地球市民として主体的に行動できる生徒」を育成したい。そのために、目的・課題を自分で決められる場として、生徒が地域と関わる機会を設定する。その中で、見通しを立てて活動することで、生徒自身が自分ごととして役割に責任をもち、学校で学んだ力を活かして主体的に取り組むことができる考える。

3 活動内容

- 4 月 ・フジバカマの育成（地域学校共働本部と連携）
アサギマダラを飛来させるために第 3 フジバカマ園の造成・育成。環境委員の生徒が中心となって、観察や水やり。
- 1 0 月
- 6 月 ・2 年生「ふるさとウォーク」（地域学校共働本部と連携）
47 災害について地域の方を講師に迎え、被災現場の現在と当時を見比べたり、インタビューを行ったりする活動を実施。
- 7 月 ・3 年生「ミナミのミライを語る会」（地域の人材や公的機関、企業と連携）
地域の魅力を再確認するためにインタビュー活動を行い、自分たちができることを考えて、地域の方々とともに貢献活動を実施。
（活動例：地域のふれあいフェスティバルに貢献しよう、事故防止啓発動画を作ろう、地域食材を活かしたスイーツを洋菓子店とコラボレーションして作ろう、伝統芸能を広めよう、公共施設の魅力を紹介する動画を作ろうなど）
- 8 月 ・ぞうきん製作ボランティア（地域高齢者クラブと連携）
3 年生ボランティアが、地域高齢者クラブの方々と一緒に、ぞうきんをミシンで製作。
- 1 0 月 ・ふれあいフェスティバルでの発表等
防災に関する体験型ブースの設置。
（内容例：消火体験、大雨体験、地震体験、暴風体験、HUG、救急救命体験、ハンディキャップ体験など）
魅力ある藤岡南地区について、来場者に様々な形態での披露。

(内容例：地域幼の稚園児を招いてのソーラン節演技披露、間伐材を活用した商品販売、地産地消を意識した地域洋菓子店とのコラボ商品販売、地域住民参加型のリアル野球盤大会、法螺貝演奏披露等)

10月 ・プランターでの花栽培（地域ボランティアと連携）

〽 交流館を訪れる方の目を楽しませたい、地域で育つ園児や小学生の卒園式・卒業式に貢献したいという思いで、環境委員や3年生ボランティアが地域のボランティアの方と一緒に、花を栽培。

4 成果と課題

今年度もコロナ禍により活動が制限される1年ではあったが、保護者アンケートの「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動をおこなっているか」では、【とてもよくしている：18%、よくしている：63%】と8割を超える前向きな結果が出ている。ホームページや学校だより、学年通信を活用したこまめな情報配信による紹介が大きな一因であると考え。だが、【分からない】の項目が昨年度は16.4%だったのに対して今年度は15%と、僅かではあるが減少しているものの高い状態が続いている。保護者の立場で考えた情報提供を心がけ、今後の活動に対する理解を得たい。

昨年度は、地域学校共働本部の協力を得て新たに造成したフジバカマ園で、本校では6年ぶりにアサギマダラの姿が目撃された。今年度は、環境委員会が中心となって、4月当初から栽培育成を行ってきたが、残念ながらアサギマダラの飛来は目撃されなかった。環境委員会では、より大きな成果を出そうと第3フジバカマ園の造成について、立地条件や広さを吟味しながら議論している。

2年生の総合的な学習の時間で、防災をテーマに調べ学習を進めた。その中で、この地域が50年前に被災した47災害について知り、地域学校共働本部と連携して、被災現場の現在と当時を見比べたり、インタビューを行ったりする「ふるさとウォーク」を実施した。泥流に吞まれた地域住民を救おうと尽力された方々の話を聞き、生徒たちは自分たちも地域の防災のために何ができるか考え、それぞれがテーマをもって調べるようになった。生徒たちは調べ学習を進めていく中で、さまざまな災害に実際にどう対応すればよいか、知識だけでなく体験をすることで危機に対応できるようになるだろうと考えるようになった。地域のふれあいフェスティバルでの体験型ブースの運営・実施は、地域住民が共助の大切さを啓蒙したり、命を守る行動を習得したりす絶好の機会となった。参加した保護者や地域住民からは「楽しみながら学べるようになっていて、とても良かった」という声が聞かれた。

3年生は総合的な学習の時間で、地域学校共働本部や公共施設、企業などから講師を招き、「ミナミのミライを語る会」を開催した。自分たちが考える地域の良さや望ましい未来像と、講師の方々が語る地域像の相違点を比較する中で、地域にとって望ましいミライとは何かをそれぞれが考え、具現化しようと活動を行った。美しい自然を活かしたいと地域の清掃活動に取り組んだり、タブレット端末を活用してより多く

の方々に自然の良さを知ってもらおうと活動する緑化センターの魅力を紹介する動画を制作したりした。また、地域の農産物を活かしたスイーツを地域の洋菓子店と協同で開発・販売したり、製造販売にはつながらなかったが、フードロス対策として、地域企業と協同した惣菜メニュー開発に向けた企画を行ったりするなど、積極的に連携した取り組みを行った。自らが企画した活動を地域の方々と共にする中で、「自分たちも地域の一員である」という思いがより大きくなった。今後も思いをかたちにするための手立てを工夫し、生徒主体で地域に働きかけられるよう支援していきたい。

校内整備員が配置されたことで手入れが行き届き、緑豊かに校地内環境を維持することができた。また、生徒が作業しやすいように道具置き場が整備されたことで、準備片付けにかかる時間が削減され、実質的な活動時間を増やすことができた。

心の相談員が配置されたことで、教師ではない立場からのアプローチが可能となり、多様な悩みをもつ生徒が前向きに学校生活を過ごすようになっていく。本年度については、相談室を利用する生徒のうち4名が、教室で授業を受けようとステップアップを目指している状況である。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・フジバカマの育成について、ホームページで適宜更新（計8回）した。
- ・学校だよりで、取組について紹介（計7回）した。
- ・藤岡南ふれあいフェスティバルでは、特色ある学校づくり推進事業の取組について、発表や体験ブースを通して、保護者や地域の方にも参観していただいた。